吉利支丹御對治物語 下

特別
ハ7
4024
2

宮内省圖書寮

吉利支丹物語巻第下

法いてかうこ　伯翁居士えんきんの事

そうぎて俱捨ぐんを申ふ。此ぐいちくどくえん

どをふの門はまをあらとつふまなし弥佛の

はうりいるもとつふ作さなし又尺ろくを屋

てをはをはをつふまたし百年ふ一年つらぐう

ろうおとりて十さの乃おこうれとなりをまうう又一

年はをまして八十三万年の間ふまを屋わりて又

特ハ 402 2

58 2167

百年のときにまたおなじくみなくの衆生あり
尺迦牟尼仏ともうしたてまつる。二十一仏衆生を
教化せしめたまふ。ことごとくこれ菩提を成じ
て世間の衆生をあまねくかなしみたまふ。
次に仏の事。一仏衆生をもつて
四千年は教化したまふ。六十万億恒河沙人ぎん
八無為にいりぬ。今もつて仏の事はつたへ
ぎんのごとし。右は次の性あるごとく人ぎん

を仏になる性をそなへたまふ。人ぎんそこなひ
てんぐうあいはうして。えんぶくあけぬ。かき
ぶう。ぐちにんぎんのれをちくしやうだう。きんい
にんぎんれて衆生をぢぐだうにおつる。うりく
ぎんにきて。又ちにんの世。人ぎんの衆生
をかんじて。めんくのさぐにをれて仏だうを
えんぶにもあり。あくだうへひとりをあつとき
一切生を救ひ。仏だうをときんと思ふよ。きんぢう

ぎやうの三つのちふあり（ちう）はかなしとも世世
一ぢう人をみんの風ぞにハ高雅孫陸紙をぎやう
ぢうざうとふおこたるもそうへふ杉ひてせんあく
と世ひはりて正法をりんと人のみてこ
とけをぜんごんぢひをとりつけるこゝろんぶらん
ふみをあらひさいてうちあやどもくいそせをへと
ちこびあれ風ぞに心をけちをとりこゝろ一
をんむらのぢう人よもくもう次第也紙は墨花

乃みどのあいりくをられ移をへもりけをうへハぢく
のちふ始光如光乃けう。大ぜうあんどん
あうをうれ事ぶをうにまだなる事ハをまず
とうけ始をとゆとも一をんふをうるんをめうりう
まんぢをうこあをくをへてぢやうをうぢう
どへむまれてふあいてうんのふあんさせをと
ぢうを生する始也
一中智のぐうけの源ハ七日りんハ祇

らくなるふなりて法祢ちよ佛ちんてなり爲
きくハ伊勢ゑすハまんこぎやのあくせんむ
孫をとくちんして。あるあふハ天下を思いらくぞ
あんおんちやくあいこうといのうとうきうごぎんハ
あらえんのこめ。八ちうぎやうだいぼさつもれお
もうとしてうあるすぼさつぎやうみやうふうら
ひ奉ふ。祢と佛ハ水波の爲てなれだなり。タ
爲ふいむぎやうをとうんでくぎん年年とひ

なうあすとをちすす一心のくりいろんあく
ちんりうちうりうの爲ちれ地ちんとをうぎひな
ひとあ爲ふわ一心のたづふをとをのうす。又せ
きんをとをらんと申ふふ。仁義礼智信をまうか
ぼ。四ぼうふいかひちんをとをうぎ金銀を
いうれうくうへてを受ふひを也ろうとを
かうとをとをくをとをてをとをふふ
あすをこを爲むりむひをいまむる也

一上智の人ものうたがひおこるあいだ
しやう
乃至一代のぜんきやうハ四ゆひとさとりの二つを
とれどもけのふ一心のえうりきにより四よ
ふぜんなる人のこと。佛ゑとしてなり佛
ふハわるず。そもそもふそなりといふ佛と
みるさ出さまとしたらくに成てし佛ハ
なりがたきなりとのたまひけりとかう
といふなり。ちんがぎをとりてとりてぐ

ぎんとをかれたるいのハむ
ひとりぜんとふかるべきをとこ子人ぎんとなれハ
ぐんとをかるべ。そもそもかくのごとくなる
こゝろをもつてこゝろをもつてこゝろをもつて
ゆゑに。極楽ゑ万ぐとゆくべきなり
いつも。ぐんぐのまぐいかひなるとこゝろ
天ぐいの一極ん三年乃ぢ
三年のまうひあるとこゝろ

かけてがんぶのゝ名ふさとするなにわゝとさ
まもりゝふあひて作ゝ人へ行まゝあまをこと
ひゝゝへまれ也ゝさとゝゝ段乃ゝ
南蠻（えびす）ゝりゝんを名ゝ人ともゝ所（うら）出ゝ
元和年ゝゝ乃比肥（ひご）後の国ゝり始て入（いる）ゝ
まゝと上（かみ）五年ゝゝと和ゝて言上（ごんじゃう）ゝゝく肥（こゝ）
後乃国ふゝゝゝ名人の寺ゝゝとゝて小高
山のゝゝんゝゝ寺ゝて出ゝゝゝ

ゝんぶをゝけ法いゝ仕ゝまゝゝを以て
まんとゝてゝんざゝゝいゝゝゝゝゝんぶの
国まゝりんをゝさゝ名んてゝゝて仏法をひろ
めんゝあゝゝてまんをあまゝさゝゝゝゝ乃国の
うゝ五ゝゝく十ケ国乃ゝゝゝを日本の人皆
をゝし事ゝゝ年あゝさゝいゝゝとかゝけてゝ
まゝ絶ゝゝゝくをゝゝすゝ糸ゝゝ乃寺くゝゝぶん
ゝてゝゝゝふゝゝゝゝゝす又ゝゝんゝゝゝゝ高年

ハうん百うん十人ゑりていふをめへりといふ大
性とはうりうんぐん（ぐんすゐ弓矢のたゝひうく
國をとりとりてなり。海乃わたりのべをぐん
ゐをちんかの國りうゐごをとへ三年うりゐ
むとうんそうせてむりをひろめりうりとも
そわりうあひてとりくく肥後（ひご）へひふつハさん
ゆへ海ゐふたひて魚ゐ京（きょう）ものとりげゐをん物ゐ
ゐをよごんをりさハうりさんふりうり九車さんよ

なりやをゐおこなひゐをんあひそれゐ人ゐ
後うりゐをよ作せつけりうへりりゐ事なく
ト上きんて。上ゐふ者（い）ゐ京（きょう）ゐりうせゐのの
かふとゐきゐりくりげゐのふみて也後ふをれゐり
かゐ肥後ゐふおりせゐをゐ後（うゑ）人乃あひてを先（くゑ）上也
らゐ京ゐふ。ゐりりゐゐいをゐりてゐゐ白状（しらじょう）仕
國をとりんりのけをりふきと海ゐりをれりゐて
ふくふくゐおり終りて寄（よ）くりりりゐりを

きりてのあたまはしをひらひ角なるものを
さいたりしあひのらうのきれあるとをあう
はは勢いぶかをつくきもかくはかを乃事
きりうんがきりてをたたるにへらう事
在らく中乃町人うを屋。うやうめきん屋ん
どを屋んあいとくをきんさく仕とう屋を内仏
をぐうまりてをちらうびすうをのこれおかり
ををれの西又代うを伊賀さるりをげをぐ

あいはやくと。先くうきれをたちをやうをを
きの屋ぐをれを一さひ中をへすす事
なりいのちを雪ばをれをおはをれどちふうはご
あやうまりとをへををを屋ばたりをれをいを
こなくれをいくはせんとあんぐ見うひをを西
はは戸をり大久保はうをれ者はをりをてらく
中大坂はうのへなりきをつけ次第をたるにいをを
ををうを二まいはまれをとをちゆはをてをびを

うりうりけまとけりかうみの出のうち出る糸中より
ものたハ四でうゑ象のかりうふさんけうをもて
平石所石けくつをかうもおうちぐうんをもひハ
ひとなりべきれうもんものりの糸中とうち
ゆうりうりとりてうう。わさうりう後けうまてハ
ちちぎりをうけて。ぎんとまりへとうゑくく
ひくふりやうそをありうの出まゑあくハ
ゑうの大うんよあひ。でうすうゑりけうけふ

あうう。そういうう(ひうさ)ゑそらくうゑあいう
りいひりなうまもなく屋うらくとうげく
ゆうゆ。どうんご。おうたんりうとふうりんを
うやく。ううはうう(へと)人うふけうゆき者う
ひものうくをゑ。ひうのうらふなうゆうふ。一
人がりゑうハいうみふうちぶうのひうは生ハみて
ちゑまうれうれけうてのうゆうくひぐほうてめ
がうひけうゆ。うう(はゆ中のゑんぐうふ大

なんかあるべからんハ百ごのあんじをいたすべし
のよへひきあげるべきよしをもとめ
せんだいをつまいあめをうんらく地ゆ夕屋
ゆうゆうまくれて。ひぐちみあげむひがし
まちといふ。又きつねふなりうの地のゆ下屋り
うをりをつけられぬらあるうおそい参さ
ほうこうをぐいうんも思されをいさらべと
いくどうあんかりをれいるべきらふるうてハ

ゆうらハ時のうををあけてまぶいりぬさてばう
志ぎり元所くく屋人をそうらう。うけ人てぐ
をうをみかをのうあくかゆうあかるふあ
十人のうりて。むきうくくとのうりけをハやゝ
くりうちかをそうををもれうをハ
んくけ元。ほをまハ移すをいうらかけるれ
うまひなをうらをとくぐをかゆてうりきう
をてばう志元あるかうを屋りうをぬを

たき木をゆめだとうくもたにもて。夕さりハ家
ゝ[illegible]ゝ屋たゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]なふ　ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ。ゝ[illegible]ゝ木三百たゝ[illegible]
乃あつゝきハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
みて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
今まてゝ[illegible]ゝ。ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
たゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]事

右ゝ[illegible]乃[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
又[illegible]乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

たてのうんいちにんあるすいくるかるまでを
ひけるこ。一人はあんをきちんなてひきふを見
とくろいるまるえ物人知ていよく国とくさぐ
ぐれてぐてあるこを。ふくみくをおりうに
日本国乃高ごぢきう代をんどうふ御ぢれ
星くうくぶぐく治くかるあなくけるふ
ひきまてう。あるまてそれくのぐんふ寺う
せうえふのを。ちくをんくあ高寺ぢぐんふふ。陶ぎ

きぢ産なしりいさらに一人なくきるるの
ちくしけるくいく寺のぎハけ寺乃寺をまれる
をハいうあをを治をいくをくをくをかるく素
地と住りけ乃ぢをう町人ハ町乃ぢうを尺
約事。村ハちあ屋ぢを百姓ぢハぢら
年くふけわくぬめりくあ寺的けるまを法
岡のぎくみくくくの乃ぢ乳ぢうを人かを
屋をすをまで十人ぢ人法けるおをれて。火

あつかりける事あつかりの世さい今
ふるへ〳〵ばかりにて
○はくしゆひぜん高くなる事一様と聞事
寛永十四年十一月中旬の比高くなりすぐに一様
なりにおこりてくわかしくなる公
事やくそやでん田のりちがへ事
ひなりうの所ん高くなると見あるゆへ松倉
しまのかの地也六百石あてがはれ

ままくちんちして。そこ拾貳万石を地頭より
高ゆへてむねいゆへむさぶりとる。百姓とも年く
わつまふをかけて商物ばかりくへさせも年る事
なりなふをとりて高ん高をかけ。と
てもぐふをよこんとり一撥をおこし来代こん
のちくこふかくむきて。天ぷ昌といふ
を大ねゆへてもれいちこうこうのあんざを
ちもちてをを一途よきもりいざいふ

りのあるとこうてもてて。ちてざかさきうーはな
ぐりふぐらとしてふあをとはりきうもれうち。おうが
とのるもはどのうすくとうくいうちうしはりふ
そよどすこうとうまの敵火をしめひきうはう
月そちか　そ敵こすりいしてうふかうへーし
敵ぐーりうちうを。新りはふをんをを魚
はう。そうどしさちはとりはえーはあうこを魚
ねうちかのうーひ参あをてふるうひはげをを

そうずうんがぐんををそびたりそそ十八
町ちこ十ちういう。中ふうりう三をふか
ほとと郷。ふうこをうりてうりうちをは
寺ふ九ふこでんちをあげそ屋ーだ屋
いはうをまいそそ二りまう三の九までをり
はでふうらくそぐう。人数はげーりまう三万巾
立千ふをよりう。中ふもはぐそうをいう郷
りうりはふちうちうちのうーりをはちう

とぶるとそうさぶれ
うりゑどてふひけそへて
そそすあくれ。ゑそうとの屋くふかもふ
をいりて大しやしまそ
うてうそうあると。まるをれつれいとかくふか
をそれくりあるしやけをそう
海上使ふ板倉内膳正石谷十蔵介かそへて使
をしふ松平伊豆守清大石ふ細川越中守

黒田右衛門佐 播磨信濃守 有馬玄番頭 橘藤孝
寺沢兵庫頭 小笠原右近大夫 侍大将水野日向守
戸田左門 皆うりかハうすふをよびすを一をゑ
ひとをゑ。まをををををををををををををををを
ふをうをあげ。をうをををををををををををををを
をををかめうをうを水銀ふ八をををふかりはを
海をハかいををめををををををををををををを
あげいを火屋大をををりををををををををををを

名なしてハうけをかく。ゆかハあ[illegible]ゆ
ものをいくてゑのゝ[illegible]
ゝます。ゝ[illegible]
てゝ[illegible]ゝを三ぶんあけ[illegible]
ゝ[illegible]のゝ[illegible]
ゝそゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]

ゝせその人数をゝ[illegible]
ゝんゝてたゝ[illegible]
行ゝも弱めゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝんゝとゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]

たまひてのちぐそくふいてき　きてさこ藤
あそびぐんの門を出給ひて　ろくのうちを二
重三重はとりこめ　駿馬（えうま）あまたいつつら
とりそめくうつ　ゝ出給ひて　さてうき宮
わんのうちなりとゝ　百姓ども　ゝ出で参
りたまひよりたまひ　ゝとをとをてハふひんの
遠いくさはなん。　見んずる所ハ　ゝ様のうえ
をなくふうふをそ　ゝりなる酒をひたう

ゝ　ゝ　ゝ　

くらひてゆ乃あるそ〳〵ハ二人りゆ〳〵ハひ
ゆ〳〵あるとゑて寛永十五年正月廿七日
そんそうそうあせんとちよぢんハおひ
奥ゆめをくい二ぢんゐふ弟ちらくとゑぢん
ゐいをあひゆよりぢわひちゝたゝをぢ
ぢひゆ〳〵ハるにてゆゆとゝてりきわい
ゑむりをめのくゑいちをまんぢひ
とまるゆ乃ゝいゝぢゆゝるひちえ我

ゆとゝ空二乃九ふゆくゝゆゆ　ゆちまを門
をひゝきゑりゆをゆりてちゝ入ゆ九
いゝ二三ど火花をちゝけゝゆけいゆゆ
きれてゝゝゝひをとゝまをゆ九へゆゆむ
乃ゝ火ゑを要ゆゝくゝ八ゝゝゝゆゆ乃
乃を乃乃ゆふゆ九出ゆをゝゝゆどゝり
おいゝ二ゆりゝのゝちふゆまよゆ乃ゆい
出乃ゝ（よって）ゆ九ゝゆゑゆひをまをすふ

きこゆ六千。屋ゆきぶふ。ふうすてふなりの
女ちんへ松合四方あまりをせてをとへきく
きくそんでいのそれいちれふかたりたるうり
ふうにらすちんどのをきられ自ましたた
ぐそれ人数屋りぐりれ足事いつまをを
まとをけてかめうしむ物ぐりをを。う
れ人のりりひりぐ学もををを所出る也

松舎ちへる男上ニ乗り事

松ぐりぶんこ乃ものとト、ハあ八御ものれ国使
弁ちあん者い家老一ぶんの人也一ちんういく去
ち。すぐのてぐりをりの名んふりてちりせりち
ふりく主なりあて極。強ぐをを里ぐして
毎月紙ニさりとれん年老ぐ(ろう)ありてたりハふよ
屋りうりちをし松舎おなりぐ者ふあとし考
ぐりがな御付れをかりる記事ぐりげもりぐ人う
殿ど江戸ふ到ととあひ使ふ御仕ふとれ多

なりあるときてらあるの者ゑ中ふこ者うくちう多
ものとたてそ〜万るすとう是一人ふまうせ四の
ちくとしのまハとふをとよそす。ふ船ちうでんの
あのをまくふをあうト和ふまうそうしふハの
男ゞあいのふふハ。ア上ちるんどいくちうぐんを
まけうとゆても業もうちぞんをあるこ
とくく程をふちうちんか来してる上四十
四人ことうの人きみ彩ゑ船ふかうう

それを程ちあり上ちうゆさしゆ一人なう男あ
ずひなりげそハをやじまあやうやを
りをひさ神代ひくてちうのふまあ過一人をあ
きとあひさちあうを乃者麗となのでふ
のゆちぶるすいちうゆ

大人小男ふまうす人と先つ小高くあう
ちちのう茶ちゆくのちうあ小ハ彩ふ不き
りのとし正家さぐむ称。彩色をハあう男

迎えれ小男りのをハ。後ゝ云海さつまゝふるゝ
なるの屋ふひらして先つゝ見れて一人を
うしろのなーかゝけれ世ゝへけるゝ
ちゝふ地いつまをうりまけて出ふ小ゝうふ
色まけと見也行ゝすわるゝあくゝんゝ
いゝりを見まけそれ小先つゝ見れ一ゝを
出て下知なくゝびゝとふゝなるけをゝ
ふゝん云屋ゝに屋ゝふおゝなゝ形へも

百ふふゝらて。ゝゝゝ

ちぶさをとすて栗ばかりをうんとくひ
ばかりを屠蘇とすてうまんをあるかぎり
のみあるふみ屠蘇にのみてをう
ほうとてそのあるものをのみ。ひまをとりて
ばかりをかすて又ばかりをのみかりた
百まふかりを屠蘇にのみかくかくなる人は
ぬうんてうを若とをえてはのあの者を
ちとをうんばかりふみ屠蘇ていう

屠蘇のまばかりとそをもくのみ一日にばかりの
をうあるまりてなるはかりはかりはかりの
かりあるのをうんをうやまをく門前ふ市(いち)をす
又我ふをうばかりのふをうをうけてちなるを
なす我ふをうばかりをもくふ屠蘇のはか
をうとかうしてあてつひふ発ばかりをうんいの
かのおもものをうすとをうふをうをおを
てむ者をなをうふす大力(じき)を正(じき)なる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佛神をいのりまつるべき
ことはかりすくなくなり
屋のてあるなめたるへてやとしを経へるなと
なるとて日本ハ秋国とひなるかゆゑ
ゆゑ地三国でんらいしてまつる秋をぶん
ぶつのことのりのこと
地ふをらあん秋ふりの火をまつるなり
ふいらくのあびをそこ後のとひろめ佛

秋をまいらふ屋のうけてはあんをぬいを
ちうん事なげいいをちうふをいをを知あり
りのハあさ夕ふをれをひなけく不ふ寸土
尺地をもを足をなめるすぐんりまをひ
六十余州乃大小の秋ぎ三世乃ちを佛しつを
ちうをひおり給て天下を屋ハ国とあんぬ
佛代ちうきう方こうまん年みいをのあひ
ぬ高ちうをくをんぐんちうん君臣乃ぐくをいをを

延喜聖代の御世に人参考

寛永十六己卯 稔八月吉祥日

アナキ

神社考

国

羽田踏鞴門